



ホワイトニングをはじめませんか？！

歯はもともと黄色っぽい

皆さんは、自分の歯の色を気に入っていますか？私たちの歯は、個人差はありますが、もともと少し黄色っぽい色をしています。それは歯の内側にある象牙質の濃い色が内側のエナメル質に透けて見えるからです。歯の色は、象牙質や歯の内側に入り込む有機質(変色物質)によって、年齢とともにさらに濃くなります。また、歯の病気や薬剤、金属の影響などでも、色が黒ずんだり茶色っぽくなる場合があります。こうしたことは歯の表面ではなく、内部で起きた変色が透けて見えていることがほとんどです。ホワイトニングを行うと、エナメル質の微細なエナメル小柱の隙間から浸みこんだホワイトニング剤がエナメル質から象牙質との境目へと浸みこみ、歯の内部の変色物質を分解して白くします。

こすっても歯の色は変わらない

歯を白くしたいゆからと、歯ブラシで過剰に歯をこするかが時々おられます。歯面をこすって取れるのは、茶渋のような『ステイン』だけ。元の歯より白くなることはありません。日本製の歯磨き剤には漂白のための薬剤が入っていません。『ホワイトニング効果』をうたう製品はステイン(表面の汚れ)の除去はしてくれますが、歯本来の色を漂白する機能はありません。

虫歯がないか検診を受けて

虫歯は一見しただけではわからない歯と歯の間や、詰めのものの下などに隠れて痛みのないまま広がっていることがあります。それを知らずにホワイトニングすると虫歯に薬剤が入りしみてしまうことがあります。ホワイトニングは歯科医師の診査・診断を受けて行いましょう。

被せ物、詰め物ありませんか？

ホワイトニングは自分の歯を白くすることはできますが、すでに入っている被せ物や詰め物の色まで白く変えることはできません。天然歯だけがホワイトニングされると被せ物や詰め物がむしろ目立ってしまうことがあります。そういうときは天然歯に合わせて被せ物や詰め物を入れ直すことで、調和した口元にすることもできます。治療してあるお口へのホワイトニングは可能ですので、ご相談ください。

腫れた歯ぐき、まずは治療を

ホワイトニング剤には消毒薬のオキシドールと同じ成分が入っています。歯周病で歯ぐきに炎症があると、ホワイトニングに力を発揮すべき薬剤が、先に歯ぐきの炎症に反応してしまい、薬効を失って本来の目的を果たすことができません。歯周病のかたはホワイトニングの効果が上がりにくいいため、前処置として、クリーニングやブラッシング指導を受け、プラークを減らし、歯石を取ってからホワイトニングをはじめましょう。